

TruPhase の導入(9)

—アンプの交換(2)—

1. はじめに

前報(8)に引き続き、TruPhase のデジタル再生におけるアンプの交換を実施しました。

2. TruPhase のデジタル再生における動作確認方法

接続は P&G のフェーダーと TruPhase を入れ替え、入力は、ZANDEN Model 120 からアナログアキュライザーAACU-1000 経由の RCA 入力を TruPhase の RCA3 の端子に入力し、出力は RCA 出力を PX-25 シングルアンプに入力することで再生を行いました。即ち、アンプの交換と AACU-1000 を TruPhase の出力側から入力側に変更しています。

すでに P&G のフェーダーで評価の固まっている、前報(3)で試聴した DMR-UBZ1 再生音源を使用し、Brooklyn DAC+の条件設定も既知の条件にしています。

音源としては下記を使用しました。

放送録画

演奏会の再現(5)

NHK BS3 クラシック倶楽部 2020 年 7 月 21 日放送【収録：2019 年 1 月 23 日】

アンサンブル・ディアーロギ

ハイドン：ピアノ 3 重奏曲

ベートーヴェン：ピアノと管楽器のための五重奏曲

演奏会の再現(6)

NHK BS3 クラシック倶楽部 2020 年 7 月 31 日放送【収録：2019 年 9 月 27 日】

タカーチ弦楽四重奏団

ハイドン：弦楽四重奏曲第 32 番「鳥」

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第 9 番「ラズモフスキー第 3 番」

BPODCH

放送ストーリーミング No.199

アンドリス・ネルソンス指揮ベルリンフィル

マーラー：交響曲第 1 番

放送ストーリーミング No.202

ベルリンフィル団員

ベートーヴェン：中期弦楽四重奏曲

3. TruPhase のデジタル再生における動作確認の結果

アンサンブル・ディアロギとタカーチ弦楽四重奏団の演奏は、ともに生演奏を聴いていますが、その時の印象をかなり忠実に再現できています。前者の演奏では、古楽器の質感、特にフォルテピアノの音色が素晴らしく再現できています。後者の演奏では、音色の肌理の細かさと緊張感溢れる演奏が聴きどころです。

ベルリンフィルのマーラー1番の演奏は、シングルアンプとしてはかなりの程度ディテールの表現から、フォルテッシモまで再現できています。しかしながら、Langevin 6V6pp アンプに比べると音の緻密さと重低音の伸びで及ばないところがあります。

ベルリンフィルのベートーヴェンの中期弦楽四重奏曲の演奏は、ラズモフスキーシリーズなどを聴きましたが、ベルリンフィルの団員による息のあった緊張感のある演奏が再現できています。

4. まとめ

アンプを PX-25 シングルアンプに交換して、DMR-UBZ1 における放送録画再生ならびに BPODCH のストリーミング音源を再生し、Brooklyn DAC+経由での TruPhase のデジタル音源再生の音質が確認できました。

以上